芳工連だより

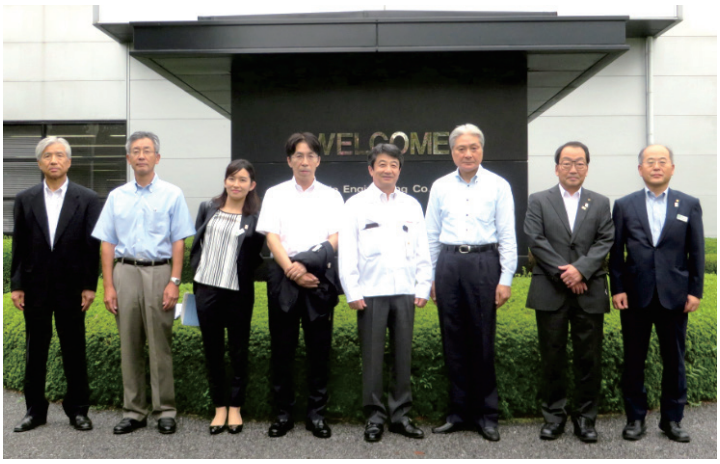
'17／10
第160号

□ 発行 芳賀町工業団地連絡協議会　□ 栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台 98　□TEL 028(677)5033
□ http://www.hokoren.com　□ E－Mail : information@hokoren.com　□編集責任者 七井 真人

■ 知事との意見交換会開催

福田富一知事との意見交換を９月６日開催しました。栃木県知事と芳工連との意見交換会は平成２１年度以来８年ぶりの開催です。

これまで、県内工業団地を毎年１カ所ずつ訪問していましたが、知事の希望で今年度から年に２カ所の工業団地と意見交換することになりました。



意見交換に先立ち、ホンダエンジニアリング(株)様の研究開発部門などの現場を福田知事、産業労働観光部長はじめ県担当者が見学しました。

ホンダグループ内でホンダエンジニアリング(株)様は、本田技術研究所で開発された車のアイディアを本田技研工業の生産現場で必要となる生産技術の開発と金型、設備の具現化を行うポジションです。

金型生産部門、設備生産部門、研究開発部門の現場で担当責任者から詳細に説明を受けました。部門ごとに精度の高い部品製造が求められることから、弛まぬ研鑽をもとに次々に成果を生み出している現場の人たちのクラフトマンシップに敬意を払わずにはいられません。

約１時間の視察でしたが、モノづくりに強い関心を持っている福田知事は、各所で細かく質問するなど旺盛な知識欲に驚かされました。

電気自動車で使用するモーター生産設備製造現場では、これまで見たこともないような製造方法とアイディアが詰まった工程に感心しました。また、エンジン金型製造では従来のエンジン金型の欠点を補い、新技術を凝縮した独自開発の特殊３D プリンターを用いた製造現場を見学することが出来ました。ホンダエンジニアリング(株)様の丁寧なご案内に感謝を申し上げます。

■ 意見交換

(株)栗﨑歯車製作所様で開催した意見交換会で、河合会長は「我々を取り巻く環境は、生産年齢人口の減少や超高齢化社会の到来、社会構造や産業構造の変化など大きく変化しています。また、人工知能や自動運転などの革新的な情報技術が私たちの生活を激変させようとしています。

知事は日頃から「ものづくり県とちぎ」を標榜し、とちぎの強みを発揮する施策の推進に力を注いでおられます。これらの重点戦略が着実に実行され、大きな成果を得ることが出来るよう期待をしているところです。

芳工連の身近な話題では、交通渋滞や交通安全の向上を喫緊の課題と捉え、周辺道路網の整備促進を産業労働観光部や県県土整備部にお願いしてきました。特に、ＬＲＴ事業計画の進捗とともに、会員企業から交通渋滞を懸念する声が数多く寄せられていることから、ＬＲＴ事業に関係する交通渋滞の回避に不可欠な道路整備事業の早期完成を平成２７年度から県当局にお願いしてまいりました。お蔭様で、要望させていただきました道路整備については、すべてＬＲＴ運行開始までに完成するよう前倒しで実施する旨の回答をいただきまして、ひとまず安堵しているところです。

工業団地に立地する企業の不安を解消し、安定した成長が持続できるよう、福田知事はじめ県執行部の皆さまには、引き続き特段のご理解とご支援をお願い申し上げます」と挨拶しました。

■ 福田知事から県施策について次のような説明がありました。

人口減少、高齢化を食い止めて行かなければいけない、と国を挙げて地方創生が叫ばれています。その中の柱として、女性活躍、元気な高齢者、障害者が生涯現役社会を築いていくため、国は一億総活躍社会担当大臣を置いて実現に取り組んでいます。

栃木県の人口は平成 28 年に約６，７００人減少しています。東京への一極集中を食い止め、東京への若者の流入を食い止めることが県政の大きな柱となっています。生涯現役で働け、障害者も自立して社会参加できる機会を与えることを県政の課題として取り組んでいます。今後ともお力添いをいただきたい。

■ 県に提出した会員企業様の質問・要望に対し、福田知事から次のような回答がありました。

Q１ 工業用水の利用拡大の見通しと料金の見通しについて

弊社は鬼怒工業用水を利用して製品を製造しているので、工業用水は大事なライフラインンとなっています。工業用水の将来の見通しについて大変関心を持っています。そこで、鬼怒工業用水の今後の需要予測と料金体系について、どのような見通しをもっているかお伺いいたします。

A1 知事からの回答

平成 30 年度に清原工業団地で 1 社増え、受水企業数は 51 社となります。供給量が 240 トン増加する見込みです。全体では一日 24､932 トンの供給量となります。

料金については、経済産業省の工業用水料金算定要領を基に、平成 28 年度に 11 社の代表企業からなる鬼怒工業用水協議会料金部会で協議し、平成 29 年度から平成 33 年度までは 1 ㎥当たり基本 49.39 円、使用料金 1 ㎥当たり 8.96 円の 2 部料金制を維持することを決定しました。

今後 10 年間の料金は、受水企業の撤退等による給水量減少がなければ料金変更はありませんが、経営の効率化を図り引き下げができるよう努力します。今後の受水企業の定着を図るために施設の修繕等を計画的に実施し、安定供給に取り組みながら、受水企業のニーズを把握するため定期的に企業訪問を行ってご意見を頂戴したいと思います。

Q２ 交通量調査結果に基づく今後の交通政策について

工業団地立地企業として、鬼怒通り、柳田街道及び宇都宮テクノ街道における交通渋滞対策と交通安全対策を最重要課題の一つとして捉え、長年に亘りその対策に取り組んでまいりました。

今後も交通渋滞や交通事故を減少させるための努力を継続する必要がありますので、これまで県県土整備部において調査された鬼怒通り、柳田街道及び宇都宮テクノ街道の主要交差点の交通量調査結果がどのように推移し現在に至っているかご教示ください。

また、これまでの交通量調査結果をどのように分析し、どのような見通しをもって今後の交通渋滞対策や交通事故対策を実施する計画かお伺いいたします。

Ａ２　知事からの回答

鬼怒川左岸地域の交通渋滞対策については、適宜、交通量調査を実施して交通状況を把握しながら交通渋滞対策を実施しています。

例えば、柳田街道の道場宿交差点西側の渋滞については、平成 17 年は４㎞の渋滞長となり通過に 1 時間以上かかっていましたが、平成 20 年春供用開始された宇都宮テクノ街道の板戸大橋開通の効果で渋滞長は３㎞に減少し通過時間も 20 分に減少できました。

また、台の原交差点についても平成 25 年に交差点に右左折レーンを増設したことで渋滞が大幅に緩和しました。県としては、今後も宇都宮向田線の平出板戸工区及び大塚工区を整備推進します。合わせて会員企業様が実施するパークアンドライドや時差出勤のソフト対策も渋滞緩和に向けて重要ですので、引き続きご協力をお願いします。

Q３ ＬＲＴ開通までの周辺道路網整備等の計画について

鬼怒通り（西進路線）の陽東三丁目交差点（産業通り）から峰町交差点（国道４号）までの区間がＬＲＴ開通により車線が減少し、この区間の工事は一年程度かかる予定と伺っています。

前倒しで整備が進められている前述の路線等に通行が切り替わり、通過台数が現在より半分程度減少するので、交通渋滞の程度は現状又はそれ以下を確保できる見込みとの説明でしたが、見込み通り分散できるのか疑問が残ります。

ついては、道路管理者として前述の幹線道路整備以外に、渋滞対策として検討されている道路整備や交差点改良などがあれば、整備箇所や施工時期などを具体的にご説明ください。

Ａ３　知事からの回答

宇都宮向田線の平出板戸工区 6.2km、大塚工区 1.6km、宇都宮高根沢バイパスの 2.6km は平成 31 年春に前倒しで供用開始します。清原から国道 123 号線までの真岡宇都宮バイパス 2.8ｋｍ区間は暫定２車線で供用していますが、４車線化に向けて既に橋梁上部工に着手し平成 33 年春の供用開始を目指しています。

国道 123 号起点の平松交差点の東進２車線化に向けて用地買収を進め平成 31 年春の供用開始に向けて推進しています。

真岡宇都宮バイパスに接続する市道みずほの通り 1.7km は、平成 33 年春に供用開始の予定です。LRT 軌道工事については、案内誘導をメディア媒体で逐次情報提供に努めて参ります。

Q４ ラウンドアバウト（円形平面交差点）導入による検証実施について

宇都宮テクノ街道については、年を追って通過車両が増えていることから、朝の通勤時間帯の渋滞が激しくなっています。

特に、鬼怒川右岸では東西に走行する宇都宮テクノ街道には近距離に三つの交差点があり、南北道路から進入する車両が増加し、信号機待ちの時間が渋滞の原因となっています。

そこで、時計回りの一方通行で、信号や一時停止の規制を受けないラウンドアバウト導入による検証実施を提案させていただきます。

既に、イギリスやアメリカなど諸外国で導入され、交差点の通過時間減少、安全性向上、通行しやすさなどの効果が実証されているラウンドアバウトです。

導入による検証については、鬼怒川右岸で板戸大橋から一番近い交差点であれば通過後の走行が円滑に流れますので、検証場所として適当と思われます。

Ａ４　知事からの回答

ラウンドアバウトについて栃木県でも研究をしているところです。本路線の宇都宮テクノ街道の交通円滑化については、先ずは暫定２車線の早期全線開通に努め、その後、速やかに４車線化が図れるようにすることで安全で円滑な交通を確保いたします。ラウンドアバウトについては今後も実現の可能性について検討を進めて参ります。

Ｑ５ 宇都宮テクノ街道の４車線化について

ＬＲＴ事業の着工にともない芳賀工業団地へアクセスする道路の交通渋滞が予測されていることから、幹線道路の整備促進をお願いしてきました。

宇都宮テクノ街道は整備の前倒しにより一部区間２車線で平成３１年春の開通を予定しておりますが、完成すればこれまでよりも格段に利便性が向上し経済効果が高まることになります。しかし、柳田大橋等の渋滞の回避道路として更なる混雑も予想されることから、宇都宮テクノ街道をより効果的に運用するためには完全４車線化が必要不可欠と考えます。

つきましては、宇都宮テクノ街道の完全４車線化に向けた計画樹立を早期に推進していただきたくお願いいたします。

Ａ５　知事からの回答

宇都宮テクノ街道は平成 14 年度から事業着手し、全体延長 6.2km の路線のうち 5.6km を供用開始し 0.6km が残っています。この部分は、地元からの要請、事業工程の見直しで平成 31 年春に前倒しで供用開始できるよう進めています。４車線化は暫定２車線の開通後、速やかに４車線化に向けた検討をすることになります。

※ 前述の質問・要望と回答で示された道路は、６ページの『鬼怒川左岸地域等の道路事業地位図』を参照ください。

■ その他の追加要望が２件あり、福田知事が次のように回答しました。

Ｑ１　街路樹プラタナスの管理について

宇都宮茂木線バイパスの街路樹に大量の毛虫が発生し、歩道を歩く社員に着いて社内に入っています。落葉の問題もありますので伐採をお願いします。また、伐採に合わせて抜根もお願いします。

Ａ１　知事からの回答

対応が遅れたことを先ずお詫びします。このあと街路樹をどのようにするかについては、伐採又は管理徹底などが考えられるので、真岡土木事務所とも協議して管理の在り方について検討させていただきます。来年度以降に向けてどのようにするか早期に結論を出します。

Q2　芳工連河合泰会長の発言

LRT 工事期間と前後の渋滞問題に対して懸念があって、平成 27 年度から説明会で意見交換をさせていただきました。宇都宮テクノ街道の未施工区間、大塚工区の整備促進、408 号バイパス 123 号線交差点改良、408 号宇都宮高根沢バイパス整備促進など、迂回路となる路線の道路整備を平成 31 年春までに前倒しで供用開始する決定をいただき、お礼を申し上げます。

その中で、鬼怒通りのベルモールへ向かう帰宅時の渋滞緩和については、工事期間中は通過車両台数を半減する必要がありますので、交通渋滞をなくすため、迂回路通行や時差出勤などのソフト面における企業への協力対応が、次のステップとして必要になると認識しています。今後もこのような意見交換をして、工事期間中、工事後も支障が無いようご協力をお願いいたします。

A2　知事からの回答

十分連携を執りたいと思います。工事期間中も情報交換しながらご迷惑を掛けないよう連携していきたいと思います。

■ 技能五輪出場選手激励

11 月 24 日から 27 日まで栃木県を会場に開催される第 55 回技能五輪全国大会に栗﨑歯車製作所様の清水幸太さんが出場することから、知事から激励の言葉をいただきました。

栗﨑歯車製作所青木社長さんが、今年度出場する清水幸太さんほか歴代出場選手５人を紹介しました。福田知事は「社長はじめ社員一丸となって選手を育てる人材育成、競技参加への理解を賜りましたことに心から感謝します。清水選手には若い人たちの目標となるよう、全国大会で日本一を射止めて欲しいと思います。自信を持って出場し、実力を如何なく発揮できるよう心から願います」と激励の言葉を述べました。

また、芳工連会員企業から 20 名が技能五輪全国大会に出場する旨の説明がありました。

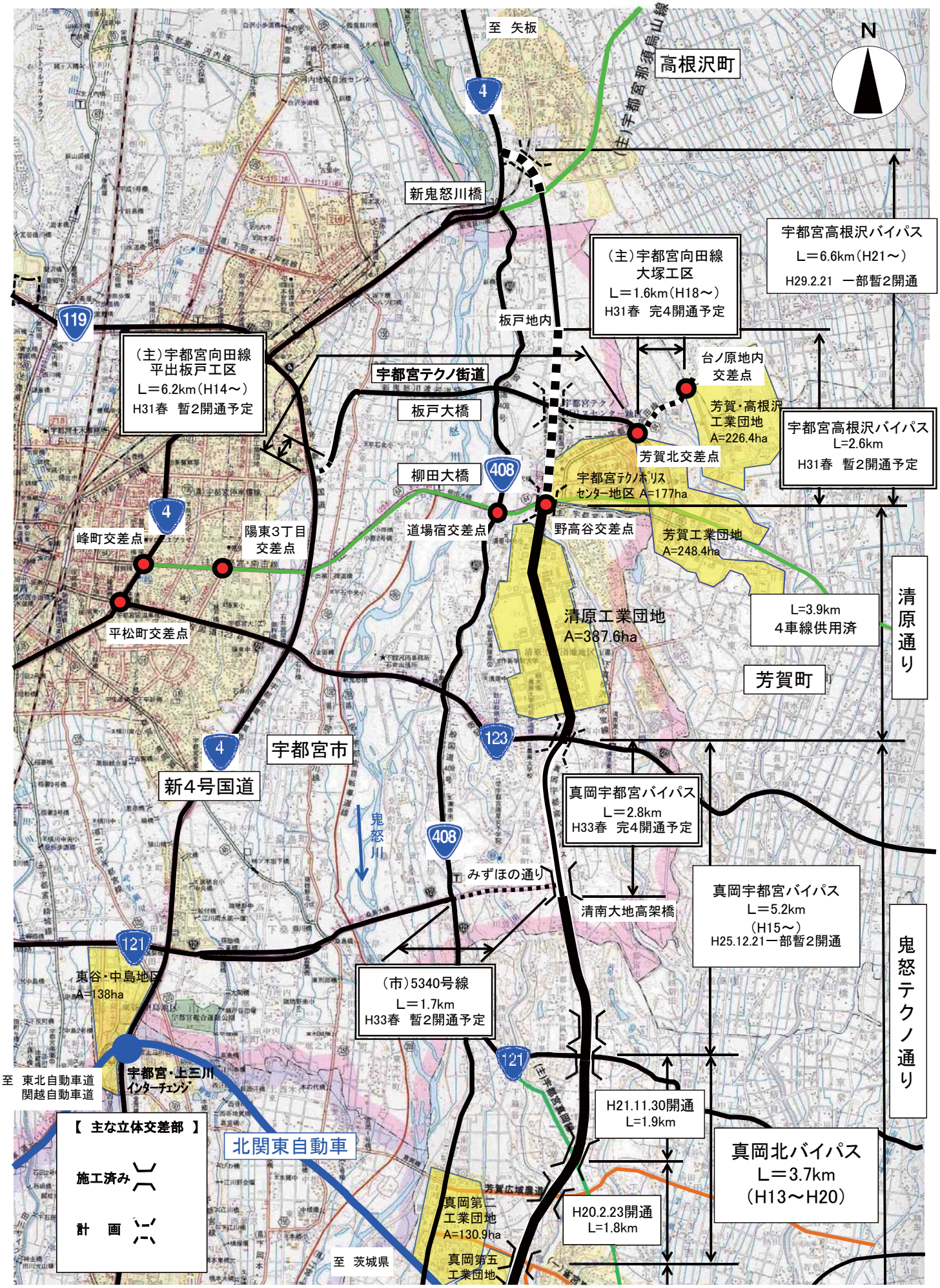
■ 栗﨑歯車製作所様の工場見学

参加者は２班に分かれ、精密な特殊ギアに特化したギア製造の工場内をご案内頂きました。工場内では超精密機械により自動車用試作歯車製作や特殊精密歯車の設計及び製作を行っていました。自動車で使用されるハイグレード・ギアは最高水準の精度が要求されますので、設置された歯車研削盤、高精度３次元測定器などの機器は世界最高水準のものばかりです。

これら最高水準の機器を思いのまま使いこなす若い技術者が、自信に満ち、誇りをもって操作している姿を垣間見ることが出来ました。

青木社長並びに栗﨑会長に丁寧なご案内と手厚いおもてなしを頂きました。多くの参加者から「栗﨑歯車製作所様の高い技術力に驚くとともに、ホスピタリティに感激した」との声を聞きました。大変有り難うございました。

鬼怒川左岸地域等の道路事業　位置図



■ 交通防犯部会を開催

９月20日開催した第２回交通防犯部会には、１４社から１４名の参加をいただきました。

開会にあたり風呂部会長は「部会活動の半年間を振り返りますと、皆さまのご協力によりまして予定通り順調に事業を執行できました。

今後は、秋から冬に向かって日が短くなりますので、交通事故の発生が心配されます。それらを踏まえて交通安全運動を実施したいと思います。引き続きご協力をお願いいたします」と挨拶しました。

協議事項で、秋の交通安全県民総ぐるみ運動に合わせ、芳賀町交通安全対策連絡協議会との連携で街頭指導を実施することなどを決定しました。

また、交通安全講習会実施要領、年末交通安全運動実施などを決定しました。事務局から芳工連各部会で予定している事業についてご説明をしました。

その他、会員企業様から次のようなご要望がありました。これらは芳賀町建設課へ対応をお願いする予定です。

（１）幹線１号線の芳賀台交差点から北の中央分離帯植込みの雑草は、車線に伸び通行に支障があるほか、会社から右折する際にも草が視界を遮り危険である。植込みを撤去しコンクリート打設をお願いしたい。

（２）管理センター前交差点から北進する２５m道路沿いの桜は、一部が朽ちて危険なので適正管理をお願いしたい。

（３）工業団地内の路側帯や停止線など路面標示が薄く、交通安全の上で支障が出ているので適切な対応をお願いしたい。

■ 秋の交通安全運動

９月２１日から３０日までの１０日間、秋の交通安全県民総ぐるみ運動が実施されました。交通防犯部会では会員企業様のご協力をいただきながら、次のような交通安全啓発活動を運動期間に実施しました。

■ のぼり旗設置

９月２０日、秋の交通安全県民総ぐるみ運動を周知いただけるよう、交通防犯部会の１４社１８名のメンバーが工業団地管理センター前交差点と芳賀台交差点の２カ所に交通安全啓発のぼり旗及び交通安全横断幕を設置しました。

隣接する立地企業様から応援メンバーが駆け付け、お手伝いいただきましたので短時間で設置が完了しました。

ご多用のところ、ご協力有り難うございました。

■ 交通安全街頭広報を実施

交通防犯部会では、芳賀町交通安全対策連絡協議会に参画する警察、地域自治会、交通安全協会などの町内関係機関や団体の皆さまと連携を図り、交通安全対策に関係する活動を実施しています。

その一環として、９月 25 日の午前７時 30 分から工業団地管理センター前交差点で、交通防犯部会の皆さま１８名が、地域の皆さまとともに赤信号で停車したドライバーに交通安全啓発チラシなどを配布しました。

参加された総勢約５０名の関係者を前に、町交通安全対策連絡協議会を代表して古壕秀一教育長が「日没時間が早まって歩行者や自転車の発見が遅れ交通事故の危険が増す時季です。そこで、発見をしっかり、夜間の減速、交差点でしっかりストップなど３Ｓを呼びかけ、運転者の交通安全意識の高めていただきたい。秋の交通安全運動を契機として交通事故防止に努めたい」と挨拶しました。

■ 安全衛生部会を開催

９月２８日開催した第２回安全衛生部会に、９社から９名のメンバーに参加いただきました。

髙山大輔部会長は「お忙しいところご出席いただき有り難うございました。今年度上期の事業は皆様のご理解とご協力で、予定どおり執行することができました。本日は下期の事業についてご審議いただきますので、よろしくお願いいたします」と挨拶しました。協議された３項目は次のように決定しました。

１ 危険予知訓練研修会は、１０月２５日開催することとし開催要領など詳細を決定しました。また、本日午後１時 30 分からコーディネーターを担当者する８名が打合せを行い、研修会の実技指導要領や役割分担の協議をするなど報告しました。

２ 安全活動事例発表会は、１２月上旬に開催することとし日時は事務局に一任することを決定しました。また、事例発表は株式会社エイチワン機種開発センター様にお願いすることを決定しました。

全国産業安全衛生大会が 11 月８日から 10 日まで神戸市で開催されますので、芳工連の参加費補助制度を活用するようご案内しました。

３ 優良企業視察研修会は２月の開催とし、研修先は埼玉県春日部市内の『首都圏外郭放水路』と呼ばれる地底 50m、全長 6.3ｋｍの世界最大級の地下放水路施設に決定しました。

■ 第３７回ボウリング大会開催

総務企画部会が主催する第３７回ボウリング大会を９月１３日宇都宮市内で開催しました。

ここ数年は参加者が増加傾向にあり大変有難いことです。今回１３社から７１名のエントリーがあり、これまでで最高の人数となりました。

スタートの合図で、１８レーン一斉にボールが投げられると絶叫に包まれました。

各レーンでは、ストライクに歓声が沸き、ハイタッチの笑顔に和みます。

今回は、ユニホームを揃え、派手なパフォーマンスで爆笑を誘う大胆なチームも出現しました。成績上位を狙うチームには管理職が応援に駆け付け、叱咤激励する微笑ましい様子を見ることもできました。楽しく場を盛り上げてくれた皆さまに感謝いたします。

優勝は、(株)ショーワの加藤・木川・伊東・深田チーム（右写真）でした。同メンバーはこれで３連覇となります。

準優勝は大星電機(株)の大久保・大木・鈴木・福山チーム、３位は(株)ベストロジ栃木の長谷川・有山・高橋・大山チームでした。

この大会の魅力の一つは豪華賞品です。今回も(株)ホンダテクノフォート様、(株)協永堂印刷様、大星電機(株)様、サンクレール(株)様、日本梱包運輸倉庫(株)様、(株)栗﨑歯車製作所様、(株)ベストロジ栃木様、(株)オートテクニックジャパン様、(株)ショーワ様、AGC オートモーティブウインドウシステムズ(株)様、ホンダエンジニアリング(株)様、ホンダ開発(株)様、(株)日高精機様から賞品のご提供をいただきました。

有り難うございました。

■ 全国労働衛生週間説明会

９月１２日真岡労働基準協会主催による全国労働衛生週間説明会が真岡市内で開催されました。

真岡労働基準協会長会社である日産自動車（株）栃木工場の加藤正樹氏が「全国労働衛生週間は継続的に毎年実施され、本年で第 68 回目を迎える歴史ある活動です。今年の衛生週間実施要綱にもありますが、治療をしながら仕事を続ける方は労働人口の 3 分の１になると言われています。このような実態の中、治療と仕事の両立が困難な方に対し、如何にサポートしていけるか検討していく必要があります。

このよう状況を踏まえ、今年度は「働き方改革で見直そう　みんなが輝く　健康職場」をスローガンとして、活動の一層の推進を目指しています。

働き方改革の見直しについては、同じ悩みを抱える方々が、会社を超えたネットワークを構築していただき、労働衛生向上活動を盛り上げていただきたいと思います」と挨拶しました。

■ 真岡労働基準監督署の野沢署長が「平成 29 年度全国労働衛生週間実施要綱について」、次のように説明しました。

過重な長時間労働が原因で、脳・心臓疾患を発症したとして労災支給決定された件数は、平成 28 年度は全国で 260 人となり平成 27 年度の 251 人より９人増加しました。

業務に起因したストレスが原因で、精神障害を発症したとして労災支給決定された件数は、平成 28 年度は全国で 498 人となり平成 27 年度の 472 人より 26 人増加しました。

これらの労災支給決定された方のうち、死亡者は全国で 191 人となり平成 27 年度の 189 人より２人増加しました。

平成 29 年度第 68 回全国労働衛生週間にあたり、労働衛生意識の高揚を図るとともに、自主的な労働衛生管理活動の定着を目指し、各事業所において事業者及び労働者が連携・協力していただきたいと思います。

今年度は、「治療と仕事の両立支援対策の推進」、「化学物質による健康障害防止対策」、「メンタルヘルス対策の推進」、「過重労働による健康障害被害防止のための総合対策の推進」、「腰痛予防対策の推進」、「受動喫煙防止対策の推進」、「熱中症予防対策の徹底」、「石綿ばく露防止対策の徹底」の８項目を重点としていますので、日常の総点検をお願いします。

「治療と仕事の両立支援対策の推進」は、病気を治療しながら仕事をしている方が労働人口の３人に１人を占めており、超高齢化社会を迎えようとしている日本においては、10 年先、20 年先を見据えて、取り組んでいかなければならない重要課題であることから、重点事項のトップに位置づけられています。「メンタルヘルス対策について」は、平成 27 年 12 月１日から労働者 50 人以上の事業場を対象にスタートしたストレスチェツク制度ですが、労働者 50 人未満の事業場は努力義務となっていますが、積極的な取り組みをお願いします。

芳工連日誌

【９月の実績 】

６日　栃木県知事との意見交換会
１２日　全国労働衛生週間説明会
１３日　第３７回ボウリング大会
２０日　交通安全のぼり旗設置
２０日　交通防犯部会
２５日　秋の交通安全街頭広報活動
２７日　資源ごみ回収日
２８日　安全衛生部会

【１０月の予定 】

２日　交通安全のぼり旗撤去
３日　栃木地方産業安全衛生大会
４日　普通救命講習会
４日　清原工業団地情報交換会
１７日　若手研修会
１８日　総務企画部会
１９日　第３回クリーン作戦
２４日　第２回役員会
２５日　危険予知訓練（ＫＹＴ）研修会
２５日　資源ごみ回収日
３１日　管理センター管理組合役員会